

令和6年度『全国学力・学習状況調査』 座間市立小・中学校全体の結果と傾向

国語・算数・数学・児童生徒質問紙からみた傾向

座間市教育委員会

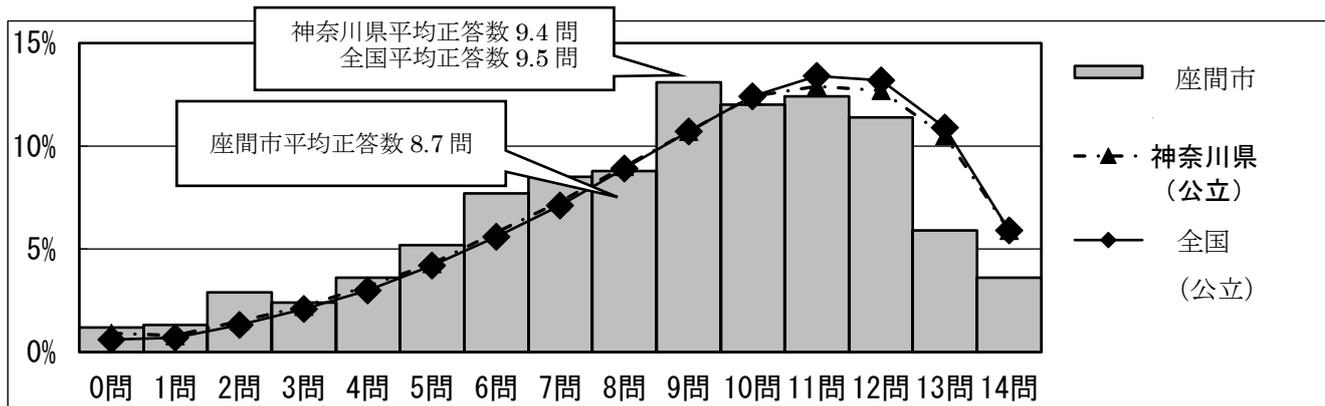
令和6年10月

分類・区分別平均正答率

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			座間市	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体			62	67	67.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	56.8	62.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	85.5	87.7
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	63.9	73.3
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	57.0	60.3
		B 書くこと	2	65.5	68.3
		C 読むこと	3	63.4	69.6
問題形式	選択式	10	65.9	70.1	
	短答式	2	49.1	55.5	
	記述式	2	55.9	61.9	

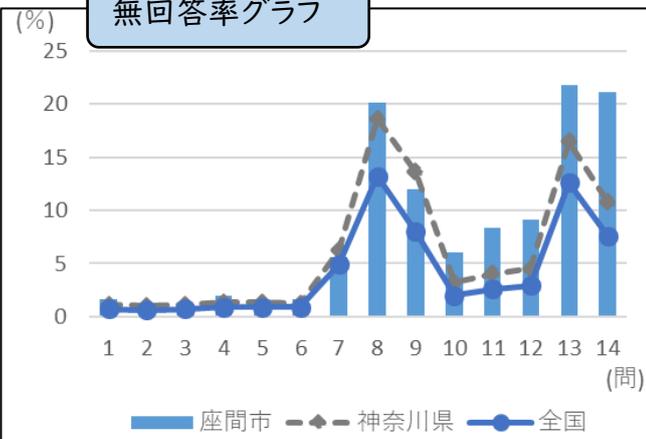
- ・各領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の中では、特に「読むこと」の正答率が全国より下回っています。
- ・問題形式では、特に短答式、記述式の正答率が全国より下回っています。

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

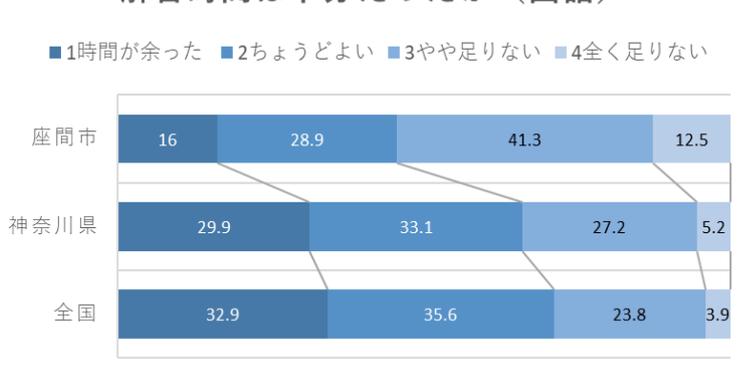


- ・10問以上正答した児童数の割合が県、全国と比べて低いです。
- ・正答数が半分以下(0~7問)の児童数の割合が県、全国と比べて高いです。

無回答率グラフ



解答時間は十分だったか(国語)



- ・後半の問題は、県・全国と比べて特に無回答率が高くなっています。質問紙調査「解答時間は十分だったか」で「足りない」と回答した児童が多いことを合わせて考えると、最後まで問題を解き切れていない児童が多いことが推測されます。

全国の正答率を下回った問題の例

設問 3 三

趣旨

人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる。

- 三 原さんは、島さんと話し合ったあと、「物語」を読んで、心に残ったところとその理由をまとめています。あなたなら、「物語」を読んで、心に残ったところとその理由をどのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。
- （条件）
- 心に残ったところと、心に残った理由を書くこと。
 - 「物語」から言葉や文を取り上げて書くこと。
 - 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。どちらの行を変えないで、続けて書きましょう。

ア きょうぎの作戦を考えたりします。

上級生が遠くからボールをイ 上げる

三 高山さんは「高山さんの文章」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた。部ア、イを漢字で書いていねいに書きましょう。

設問 2 三ア

趣旨

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる

分析結果

平均正答率は、全国平均を下回りました。物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く記述式の問題や、漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる問題等に課題が残りました。話し言葉と書き言葉との違いに気付くことや、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することをみる問題等については、全国平均と同程度でした。

指導改善のポイント

○漢字を文の中で正しく使うことができるようにするために

当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにすることが重要です。また、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが大切です。

○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるようにするために

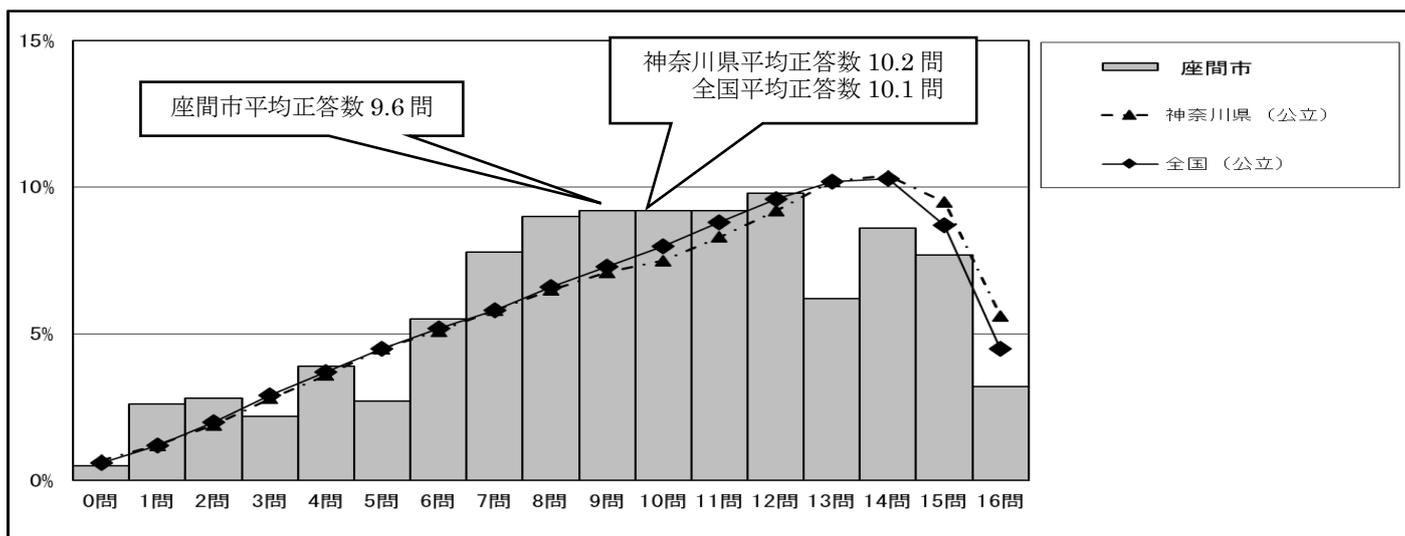
物語を読んでそれぞれの心に残ったところとその理由を交流することにより、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるようにすることが大切です。その際、友達の考えと比べることを通して、児童自身が「人物像」や「物語の全体像」、「表現の効果」のどの観点で読んだのかを明確にしていけるようにすることが大切です。

分類・区分別平均正答率

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			座間市	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体			60	64	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	63.6	66.5	66.0
	B 図形	4	62.4	66.2	66.3
	C 測定	0			
	C 変化と関係	3	47.6	54.5	51.7
	D データの活用	4	58.7	62.0	61.8
問題形式	選択式	5	73.3	75.8	75.3
	短答式	7	58.4	62.9	62.0
	記述式	4	47.1	51.1	51.0

- ・各領域の中では、特に「図形」「変化と関係」の正答率が全国より下回っています。
- ・問題形式では、特に短答式、記述式の正答率が全国より下回っています。

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



- ・13問以上正答した児童数の割合が県、全国と比べて低いです。
- ・正答数が半分以下(0~8問)の児童数の割合が県、全国と比べて高いです。

無回答率グラフ



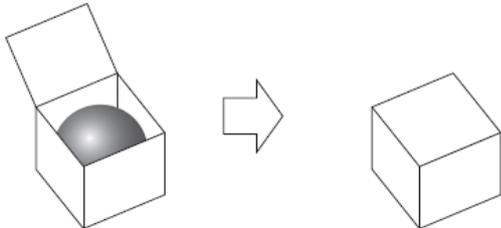
- ・全体的に、県・全国と同等の無回答率となっています。記述式・短答式の問題の無回答率が高くなっています。

全国の正答率を下回った問題の例

(3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



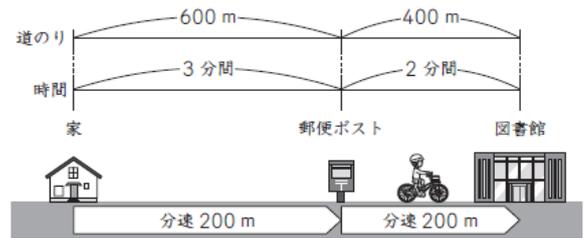
この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

設問 3(3)

趣旨

球の直径の長さ^と立方体の一辺の長さ^の関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかみる。

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5 分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは 600 m で、3 分間かかり、速さは分速 200 m でした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは 400 m で、2 分間かかり、速さは分速 200 m でした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何 m ですか。

答えを書きましょう。

設問 4(4)

趣旨

日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察できるかどうかみる。

分析結果

- ・球の直径の長さ^と立方体の一辺の長さ^の関係を捉えられていても、立方体の体積の求め方に結びついていないことがわかりました。
- ・道のりと時間の関係から速さを求めることができて、速さの意味について理解できていないことがわかりました。

指導改善のポイント

○立体図形の性質を理解し、筋道を立てて考察できるようにするために

観察や構成などの活動を通して、立体図形について共通点を見だし、立体図形の性質を実感を伴って理解できるようにすることが大切です。また、図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質を基に、必要な情報を判断し、問題を解決できるようにすることも大切です。

○二つの数量の関係に着目し、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や、求めた量の妥当性を判断できるようにするために

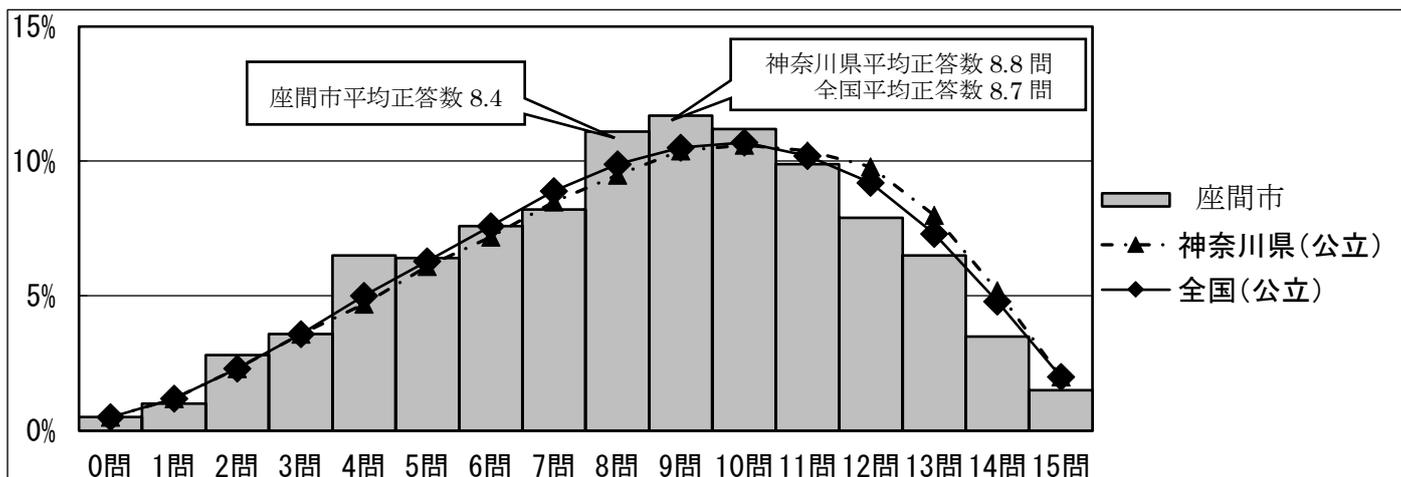
道のりを比べるときには、その長さだけで比べることができるが、速さを比べるときには、一つの量だけで比べることができず、時間と道のりという二つの量が必要になることに気づくことができるようにすることが大切です。

分類・区別平均正答率

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			座間市	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体			56	59	58.1
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	57.5	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	59.0	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	69.4	75.6
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	58.1	58.8
		B 書くこと	2	63.6	65.3
		C 読むこと	4	45.9	47.9
問題形式	選択式	9	59.9	61.0	
	短答式	3	59.5	61.8	
	記述式	3	42.6	45.5	

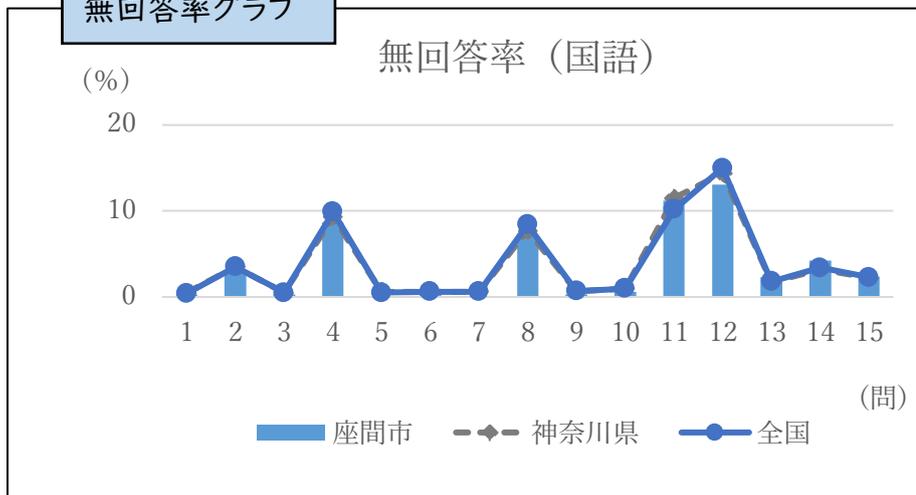
- ・特に(3)我が国の言語文化に関する事項の正答率が全国と比べると下回っています。
- ・問題形式では、特に記述式の正答率が全国より若干下回っています。

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



- ・特に8問~9問正答した生徒数の割合は、県、全国と比べて高いです。
- ・12問以上正答した生徒数の割合が県、全国と比べて低いです。

無回答率グラフ



・無回答率をしてみると、ほぼ全国と同じ割合を示しています。座間市において最も無回答率が高かったのが問12で13.1%でした。次いで、問11が11.2%、そして、問4で8.7%と続きます。自分の考えが伝わる文章になるように工夫する問いの無回答率が一番高いという結果でした。

全国の正答率を上回った問題の例

- 二 線部①と線部②の関係を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 線部②で、線部①の内容を抽象的に言い換えている。
 2 線部②で、線部①の内容を具体的に言い換えている。
 3 線部②で、線部①の内容についての推測を述べている。
 4 線部②で、線部①の内容についての意見を述べている。

設問 2 二

趣旨

具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

① 今、問題となっているのは「形」ですから、二次元的（平面的）な形容と、三次元的な（厚み方向の）形容に分けることはできそうです。つまり、先ほど挙げた例であれば、「楕円形の」「先のとがった」「丸い」「細かく裂けた」「細長い」「ギザギザのある」「針のような」「手のひらのような」は平面の形の形容で、「薄い」「平べったい」「厚ぼったい」は厚み方向の形容です。

全国の正答率を下回った問題の例

- 1 ㉠の部分は、楷書とは異なり点画を連続して書いている。
 2 ㉡の部分は、楷書とは異なり点画を直線的に書いている。
 3 ㉢の部分は、楷書と同様に終筆を止めて書いている。
 4 ㉣の部分は、楷書と同様に点画を省略して書いている。



三 田中さんは、短歌を紹介するための資料の中に、テーマである「月と風景」を行書で書きました。次の㉠から㉣までの部分の書き方について説明したものとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

設問 3

趣旨

行書の特徴を理解しているかどうかをみる。

分析結果

- 平均正答率は令和5年度と同じく、全国・神奈川県と同程度の結果でした。「読むこと」の領域においては昨年度同様やや課題が残ります。やはり生活の中で伝えあう力を高め、人との関わりの中で思考力や創造力を育てたいと考えます。また行書の特徴を理解することについて課題が見られます。文脈に即して漢字を正しく書く力については、改善の状況が見られます。情報と情報との関係のうち、特に具体と抽象についての関係の理解ができています。

指導改善のポイント

○描写を基に、短歌の内容を豊かにとらえるために

短歌や俳句などを読み味わう際には、描写などに着目し、心情や情景を創造しながら読むことが大切であり、そのことによって深い理解や感動が得られます。その際、細部の描写にも着目しながら、物事の様子や場面などを丁寧にとらえることができるように指導することが重要です。

○楷書の学習を踏まえ、行書の特徴を理解して書くようにするために

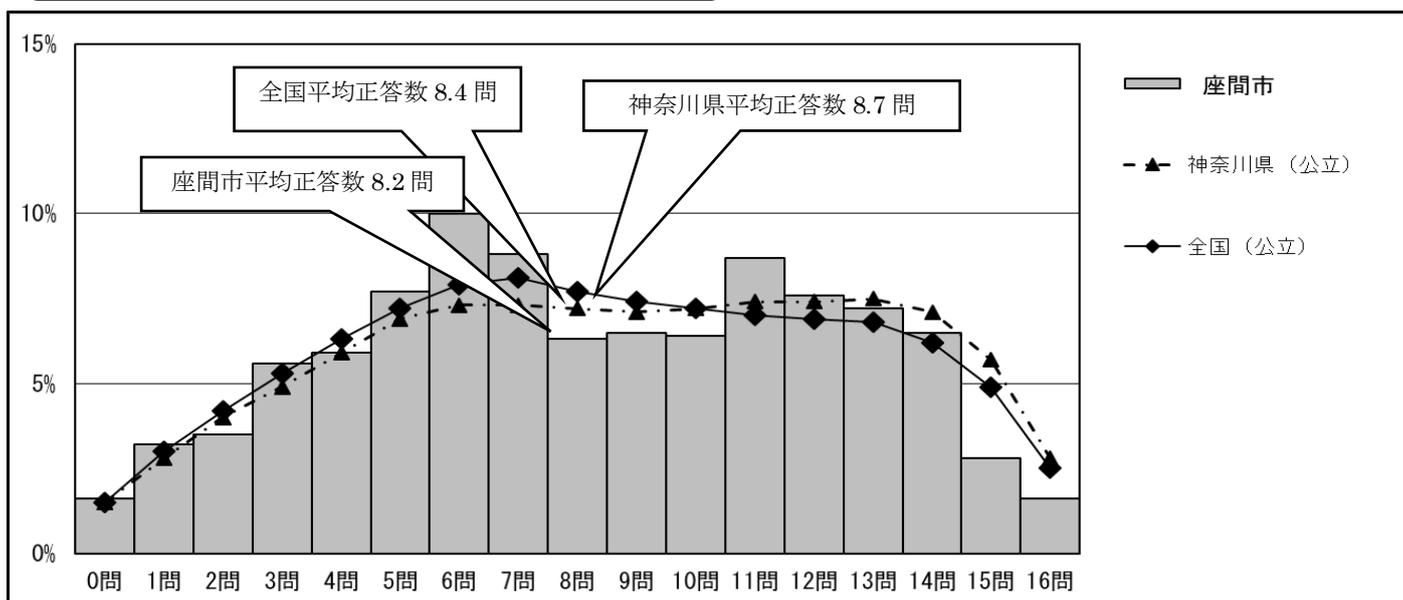
直線的な点画で構成されている漢字を行書で書く際には、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなど、行書の特徴を理解して書く必要があります。その際、楷書で書いた漢字と行書とを比較するなど、これまで学習してきたことを踏まえて指導することが大切です。また筆脈を意識した点画のつながりなどを身に付けさせるために、毛筆の活用に配慮する必要があります。

分類・区別平均正答率

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			座間市	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体		16	52	54	52.5
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	51.6	54.3	51.1
	B 図形	3	38.3	42.5	40.3
	C 関数	4	59.0	61.8	60.7
	D データの活用	4	53.9	55.6	55.5
問題形式	選択式	5	55.8	58.8	58.5
	短答式	6	68.0	69.4	67.0
	記述式	5	27.4	31.6	29.3

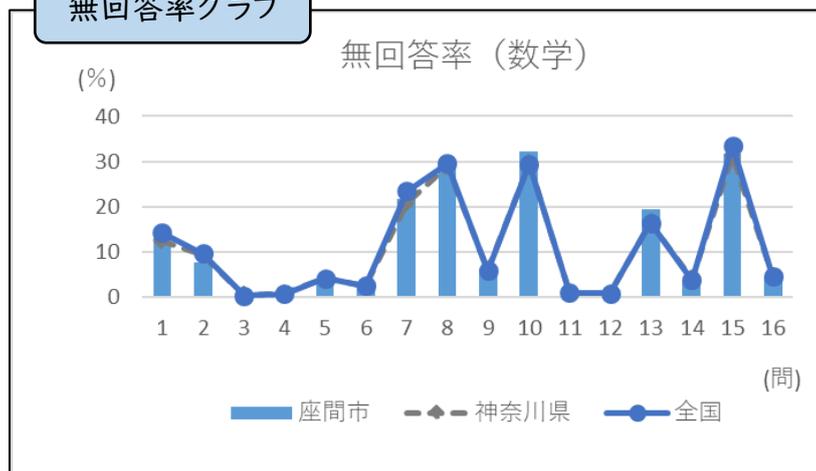
- ・各領域の中では、特に「図形」の正答率が全国より下回っています。
- ・問題形式では、特に選択式の正答率が全国より下回っています。

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



- ・全問正答した児童数の割合が県、全国と比べて低いです。
- ・正答数が半分以下(0~8問)の児童数の割合は県、全国と同等です。

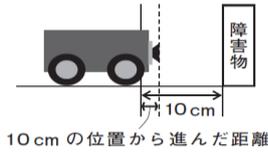
無回答率グラフ



- ・記述式の問題は、県・全国と比べて特に無回答率が高くなっています。16問中9問について、全国に比べて、無回答率が低くなっています。

全国の正答率を上回った問題の例

図2



10 cm の位置から進んだ距離について調べた結果

1.5	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	2.0	2.0
2.0	2.0	2.1	2.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.4	2.4

(単位：cm)

(1) 10 cm の位置から進んだ距離について調べた結果をもとに、10 cm の位置から進んだ距離の最頻値を求めなさい。

設問 7 (1)

趣旨 与えられたデータから最頻値を求めることができるか

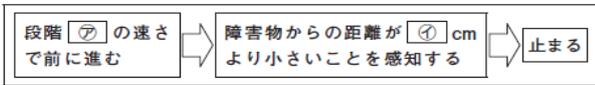
設問 7 (3)

趣旨 複数のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかみる。

全国の正答率を下回った問題の例

(3) 二人は、次のプログラムを見て、話し合っています。

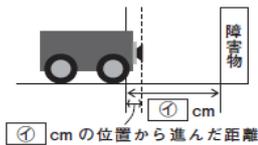
プログラム



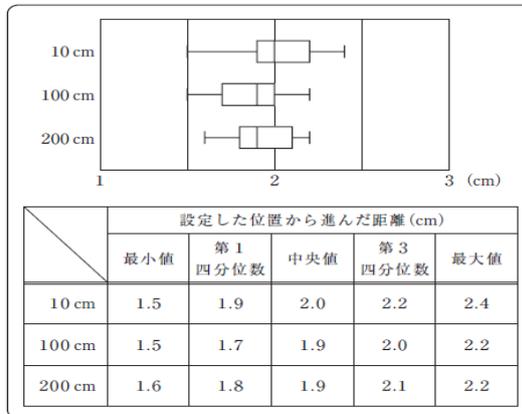
海斗さん「速さを段階1にして、障害物からの距離を変えると、設定した位置から進んだ距離はどうなるかな。」
 咲希さん「設定した位置から進んだ距離の分布の傾向が変わるかもしれないよ。」
 海斗さん「距離 ④ の値を10より大きくしてみよう。」

海斗さんは、速さの段階を1に設定して、障害物からの距離 ④ cm の設定を変えたとき、次の図3の ④ cm の位置から進んだ距離がどうなるか調べることにしました。そこで、④ の設定をすでに調べた10 cmのほか、新たに100 cm、200 cmにして、それぞれ20回ずつ調べてデータを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために、箱ひげ図に表しました。

図3



設定した位置から進んだ距離の分布



段階1の速さで、障害物からの距離を10 cm、100 cm、200 cmと長くしていくと、四分位範囲はどうなりますか。設定した位置から進んだ距離の分布から読み取り、正しいものを下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

- ア 四分位範囲はだんだん大きくなる。
- イ 四分位範囲はだんだん小さくなる。
- ウ 四分位範囲は大きくなって、小さくなる。
- エ 四分位範囲は小さくなって、大きくなる。
- オ 四分位範囲は変わらない。

分析結果

- ・ 小学校で学習した内容を振り返り、最頻値とは、データの中で最も多く現れている値であり、その値の個数を表すものではないということが確認できていることがわかりました。
- ・ 四分位範囲を比較することに課題があり、四分位範囲と範囲を混同していることがわかりました。

指導改善のポイント

○四分位範囲の必要性と意味について理解できるようにするために

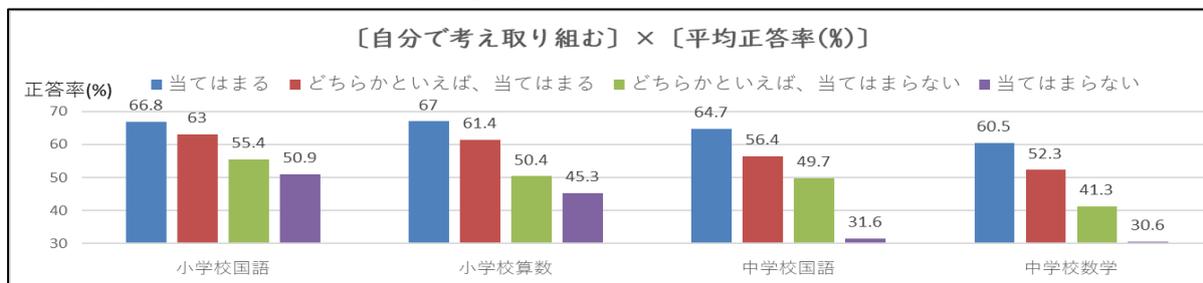
複数の集団データの分布に着目し、その傾向を比較し読み取る活動を通して、四分位範囲の必要性と意味を理解できるように指導することが大切です。その際、四分位範囲はデータの散らばりの度合いを表す指標であり、第3四分位数と第1四分位数の差で求められることを確認することが大切です。また、極端にかけ離れた値が一つでもあると、最大値や最小値は大きく変化し、範囲はその影響を受けやすいが、四分位範囲はその影響をほとんど受けないという性質を確認することも大切です。

小・中学校【児童生徒質問紙から見た傾向】

主体的・対話的で深い学び、協働的な学び

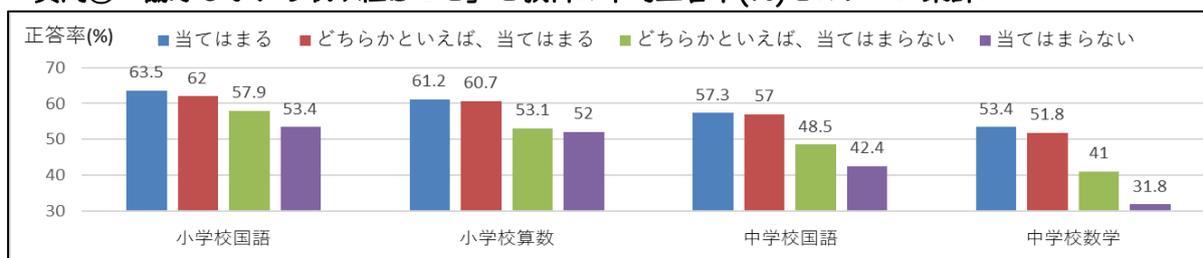
質問③⑥ 5年生（中学1・2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

<質問③⑥「主体的に取り組むこと」と教科の平均正答率(%)とのクロス集計>



質問③⑦ 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

<質問③⑦「協力しながら取り組むこと」と教科の平均正答率(%)とのクロス集計>



2つのクロス集計の結果から、**主体的な学びや協働的な学びが、児童生徒の学力と相関関係にある**ことがわかります。児童生徒が主体的に学習に向かい、**自分の考えを周囲と共有しながら課題に取り組むこと**で、**多様な視点を学び合い、より深い理解につながると**考えられます。

★★学びの充実・改善のために★★

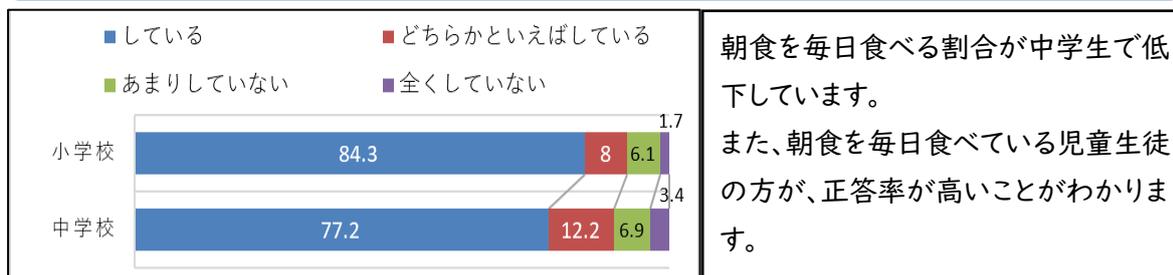
学校では、校内研究や研修等を通して、児童生徒が主体となる学びに向けた授業改善に取り組んでいきます。

- 児童生徒同士の学び合いや、いろいろな人と協働して解決する機会を大切にします。
- 自ら課題を見つけ、情報を収集しながら解決策を考える活動に取り組みます。
- 児童生徒が自己選択、自己決定できるような場面を設けます。
- 自分の学びを振り返り、学習を調整することができるようにします。
- 課題解決のために、どのように学んだら良いのか、自分にあった学び方はなにかなど、学ぶ方法も身につけられるようにします。
- ICTを日常的に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指します。

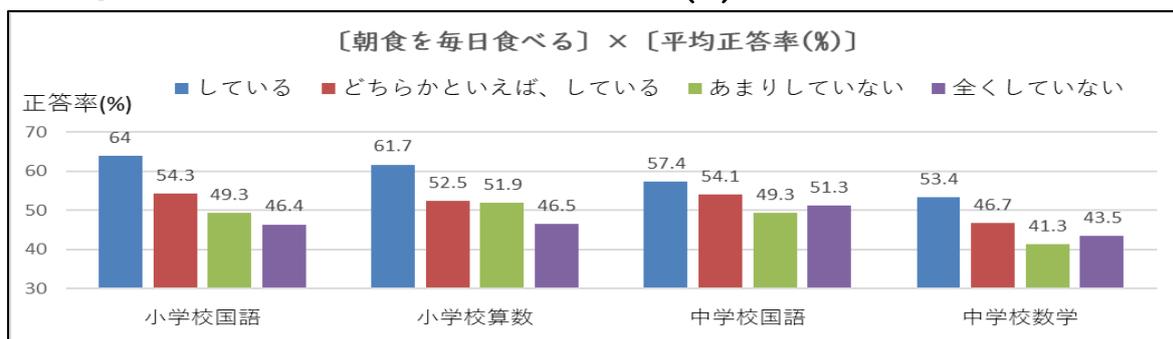
保護者の皆様には、**家庭でも子どもたちが他者と意見を交わし、協力する姿勢を育てることの大切さをご理解いただき、日常生活の中でもその機会を大切にいただければ**と思います。

基本的生活習慣

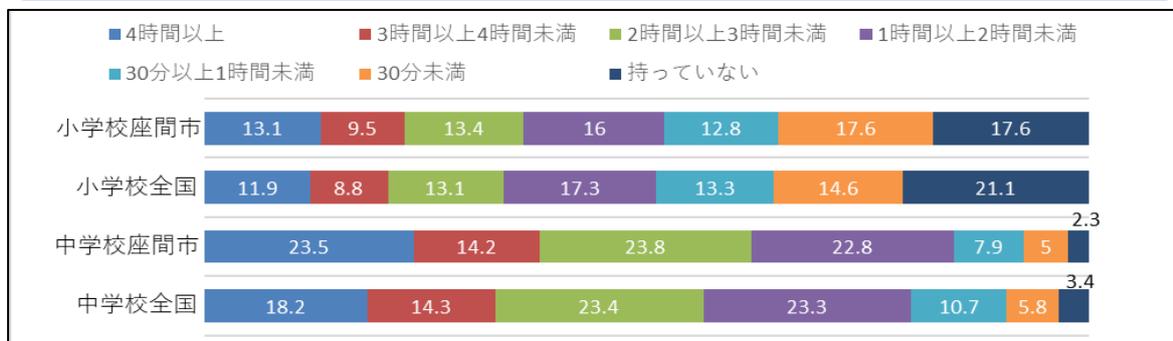
質問① 朝食を毎日食べていますか。



<質問①「朝食を毎日食べること」と教科の平均正答率(%)とのクロス集計>



質問⑥ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。



平日2時間以上スマホ等を利用している児童生徒が、全国よりも多いことがわかります。また、中学生では、スマホ等を長時間利用している生徒の割合が増加しています。

★★ここが大切★★

朝食を食べることで、栄養補給だけでなく、脳や消化器官を目覚めさせ、午前中からしっかり活動できる状態をつくることができます。また、**朝食を食べる頻度と学力には相関関係がある**と言えそうです。

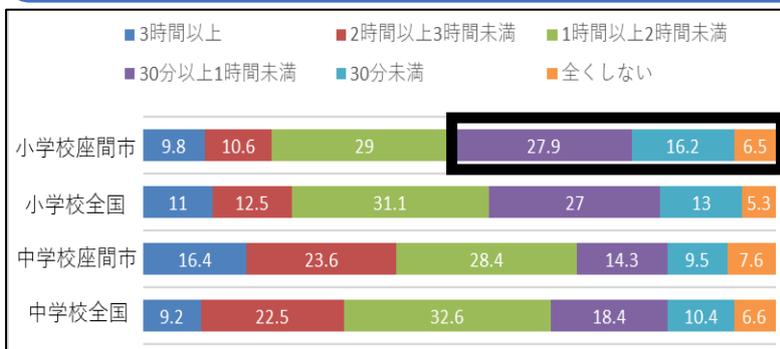
そして、**ゲームやスマートフォンの利用時間が長くなると、寝る時間が遅くなり、睡眠不足につながります。**

不規則な生活は、「朝、お腹がすいていない。」「食べる時間がない。」といった悪循環に陥る恐れがあります。

「早寝、早起き、朝ごはん」について**子どもたちと話し合い**、子どもたちが毎日を元気に楽しく過ごせるように生活習慣を整えることが大切です。

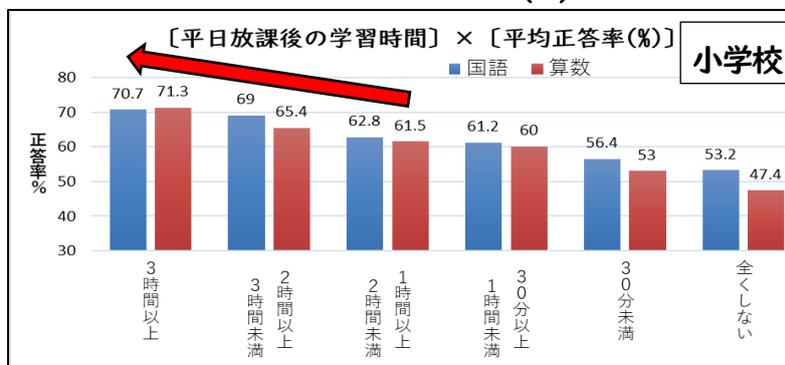
学習習慣

質問② 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

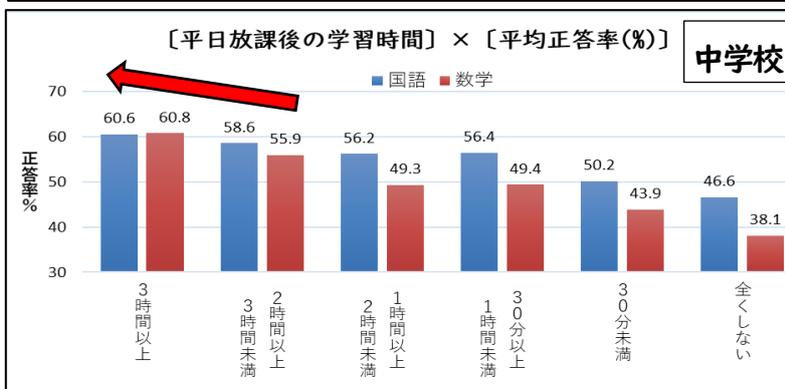


小学校では、平日放課後の学習時間が1時間未満の割合が約50%であり、全国より高くなっています。中学校では、学習習慣が身につけている生徒が増えている一方で、全く学習していない生徒も一定数います。

<質問②平日学習時間と教科の平均正答率(%)とのクロス集計>



平日放課後の学習時間が30分未満の児童は、正答率が低い傾向にあり、**学習時間が1時間以上の児童は、市平均（国語 62%算数 60%）を上回る正答率**でした。



平日放課後の学習時間が30分未満の生徒は、正答率が低い傾向にあり、**学習時間が2時間以上の生徒は、市平均（国語 56%数学 52%）を上回る正答率**でした。

★★ここが大切★★

家庭学習の時間の目安について、よく言われているのは「学年×10分」「学年×10分+10分」などです。学習時間の長さだけでなく学習内容が大切であることは言うまでもありませんが、まずは、**家庭学習を習慣化することが大切です。**

低学年から少しずつ学習時間を伸ばしていく方が無理なくできますが、**今からでも遅くありません。**子どもと一緒に**学習時間の計画を立て、毎日**少しずつ学習に取り組めるようサポートしてあげましょう。**ゲームやスマートフォンの利用時間のルール作りや再確認**も忘れずに行ってください。

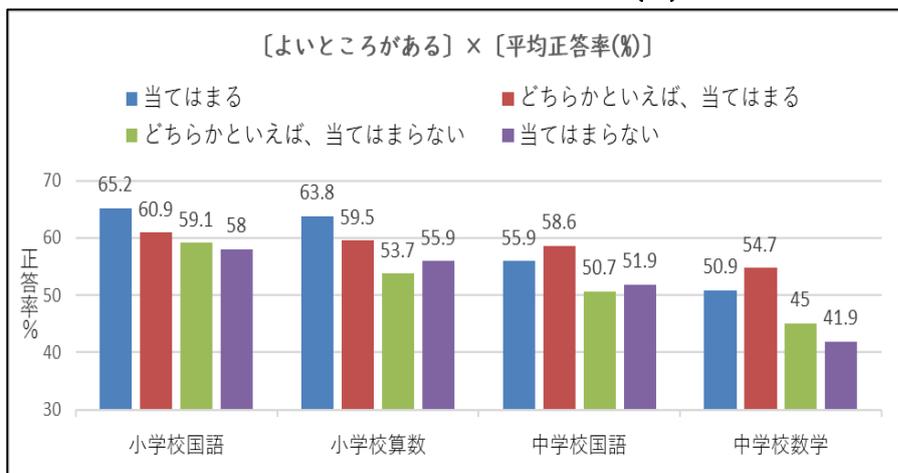
また、**本や新聞を読むことは、語彙力や読解力が高まるとともに幅広い知識が身につく、他の教科の学習にも良い影響を与えていると考えられます。**

学校では、引き続き読書活動等を推進していきますので、**家庭でも、子どもと一緒に本を読んだりニュースを見たりして、多様な話題について話し合う時間を作るよう心がけてみてください。**

自己肯定感

質問⑨ 自分には、よいところがあると思いますか。

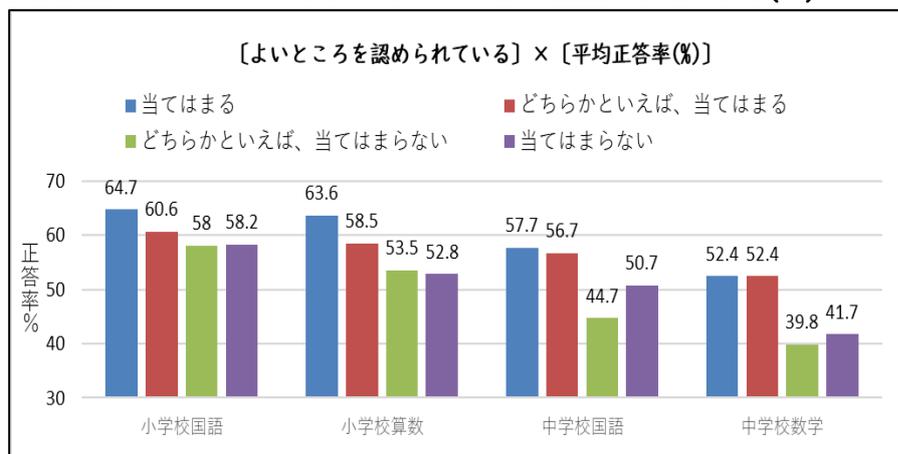
<質問⑨「よいところがある」と教科の平均正答率(%)とのクロス集計>



「自分には良いところがあるか」という質問に対して、肯定的な回答をしている児童生徒の方が、正答率が高いことがわかります。

質問⑩ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

<質問⑩「よいところを認められている」と教科の平均正答率(%)とのクロス集計>



「自分の良いところを認めてくれているか」という質問に対して、肯定的な回答をしている児童生徒の方が、正答率が高いことがわかります。

★★ここが大切★★

自己肯定感の高い児童生徒は、学習にも前向きに取り組んでいることがうかがえます。自己肯定感が学習意欲や成果に良い影響を与えることを考えると、より多くの児童生徒が自分のよいところを見つけ、肯定的に捉えられるようにすることが大切です。

「豊かな心を育むひまわりプラン」の「こんな大人になってほしい」の中にも「自分の良さを大切に、健康で自立した生活を送る」とあります。

そのためには、学校や家庭において児童生徒の良い面に目を向け、認める姿勢を持つことが重要です。

教師や保護者が児童生徒の努力や成果を具体的に褒め、励ますことで、自己肯定感が育まれ、学習意欲も高まるでしょう。

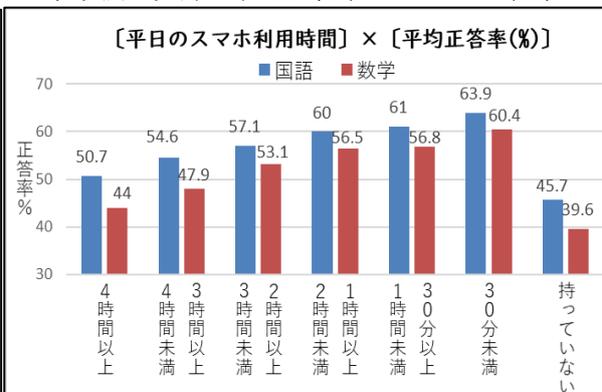
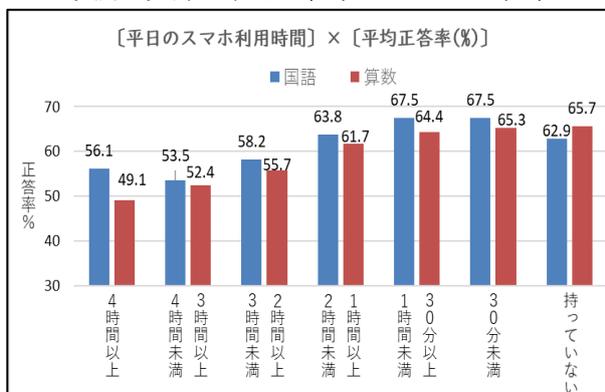
日常の小さな成功体験を積み重ねていくことで、児童生徒一人ひとりが自分に自信を持ち、学習にも積極的に取り組むことができると考えます。

スマートフォン等の利用時間

質問⑥ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームする時間は除く）

<小学校：教科の平均正答率とのクロス集計>

<中学校：教科の平均正答率とのクロス集計>



視聴時間が増えるほど、正答率が下がっています。視聴時間が30分未満の児童の正答率が高く、3時間以上視聴している児童よりも正答率が10ポイント以上高いことがわかります。

視聴時間が30分より少ない生徒の正答率が一番高く、3時間以上視聴している生徒よりも正答率が10ポイント以上高くなっています。
携帯電話やスマートフォンを持っていない生徒の正答率が高いわけではないことがわかります。

<参考>

携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	小学校 児童数の割合(%)	平均正答率(%)		中学校 生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
		国語	算数		国語	数学
1 きちんと守っている	43.4	62.6	59.1	38.7	55.9	52.1
2 だいたい守っている	30.2	64.3	62.5	38.6	59.4	53.3
3 あまり守っていない	3.4	58.3	54.1	4.7	60.5	52.6
4 守っていない	0.6	52.4	44.8	1.3	27.3	18.8
5 携帯電話・スマートフォンやコンピュータは持っているが、約束はない	10.7	58.2	56.7	14.5	53.0	50.7
6 携帯電話・スマートフォンやコンピュータを持っていない	11.7	59.7	63.8	1.9	40.8	30.9

家庭での約束が守れていない、または約束がないと回答した割合が、小学校11%程度、中学校15%程度と増加傾向にあり、正答率も低い傾向が見られます。

★★ここが大切★★

SNSや動画視聴の時間が**2時間以上**の児童生徒は、**正答率が低い**傾向にあります。また、**スマートフォンの使用に関する家庭での約束が守れていない児童生徒の正答率はさらに低くなっています。**

これらの結果から、スマートフォンの利用時間や情報モラルについて、家庭内で話し合うことの重要性が示唆されます。長時間SNSや動画視聴にスマートフォンを利用している児童生徒が増加傾向にある状況を踏まえ、**家庭で使用に関するルールを決め、子どもたちがそのルールを守ることが学力向上にもつながる**と考えられます。

御家庭において、スマートフォンの適切な利用時間を意識し、**日常生活におけるルール設定や情報モラルについて話し合う機会を持つよう**にしましょう。

〜〜ご家庭で意識していただきたいこと〜〜

★規則正しい生活習慣★

「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけ、規則正しい生活習慣を身につけられるようにしましょう。
生活習慣が整うと、学校での授業にも集中して取り組むことができます。

★家庭学習の習慣★

質問紙の平日の学習時間に関する質問への回答で「まったくしない」と回答している児童・生徒が約7%いました。宿題以外のことにも少しずつ取り組む習慣をつけていきましょう。



家庭では

- ・お互いにあいさつをしましょう。
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」を意識して、生活習慣を整えましょう。
- ・心にゆとりをもって、会話をする時間をつくりましょう。
- ・家族の一員として、子どもにも役割をもたせましょう。
- ・善悪の区別をきちんと教えましょう。
- ・子どものよさを認め、がんばったことをほめましょう。
- ・感謝の気持ちを伝え合いましょう。



★スマートフォンなどの 利用ルール作り★

情報モラルも含め、スマートフォンやゲーム利用に一定のルールを作ることで、規範意識の向上にもつながります。また、スマートフォンやゲームから目を離し、家庭での会話の時間をつくることも大切にしましょう。

★自己肯定感向上に つながる声かけ★

子どものよさを認め、頑張りをほめる機会をできるだけ多くつくり、笑顔で声かけをしていきましょう。自己肯定感とは学習意欲や成果によい影響を与えるだけではなく、将来への目的意識や生き生きとした日常生活にもつながります。

